

[少花粉ヒノキの早期実用化に関する研究]
若齢木から採取した種子由来の苗木の苗畑における生長量

畑 尚子・中村健一・小野仁士・新井一司・奈良雅代*
(緑化森林科) *現環境局多摩環境事務所

【要 約】若齢木にジベレリン・ペースト剤を施用し採取した種子由来の少花粉ヒノキ苗木は、苗畑において東京都産精英樹ヒノキ苗木と同等の生長を示し、山出しできる。また、苗木の形状についても良好である。

【目 的】

これまでの試験研究により、少花粉ヒノキの若齢木からの採種は、幹の樹皮に切れ目を入れジベレリン・ペースト剤を注入して着花誘導する方法により可能であることが明らかになっている。そこで、若齢木から採取した種子から発芽した苗木の生長量を東京都産精英樹ヒノキ（以下、ヒノキ）と比較することにより、若齢木から採取した種子由来の苗木が良好に生長するかどうかを検証する。

【方 法】

1. 生長量調査：2013年の春に苗畑に播種された、少花粉ヒノキならびにヒノキをそれぞれ40～60本ずつ抽出し、2014年10月から2016年3月まで定期的に苗長を測定した。山出し時期となる最終測定（2016年3月）の際には、根元径についても測定した。

【成果の概要】

1. 少花粉ヒノキの苗長は、ヒノキと同等の生長を示した（図1）また、根元径もヒノキと同等の生長を示した（図2）。供試した少花粉ヒノキの苗木は、裸苗における山林用主要苗木の標準規格2号（苗長55cm以上、根元径8.0mm以上）に適応しており、苗木として出荷できる大きさに生長した。また、苗木が徒長苗かどうかの指標であるH/D比（苗長/根元径：値が高いほど徒長苗である）は、少花粉ヒノキにおいて67.3であった。これは、標準規格2号に相当する68.8とほぼ同等であり（図3）、苗木の形状も良好であった。
2. まとめ：苗畑における少花粉ヒノキは、ヒノキと同等の苗長、根元径の生長を示しており、少花粉ヒノキの若齢木にジベレリン・ペースト剤を注入して着花誘導する方法により採種し育成した苗木は、ヒノキと同等に生育し、山出しできることが明らかになった。

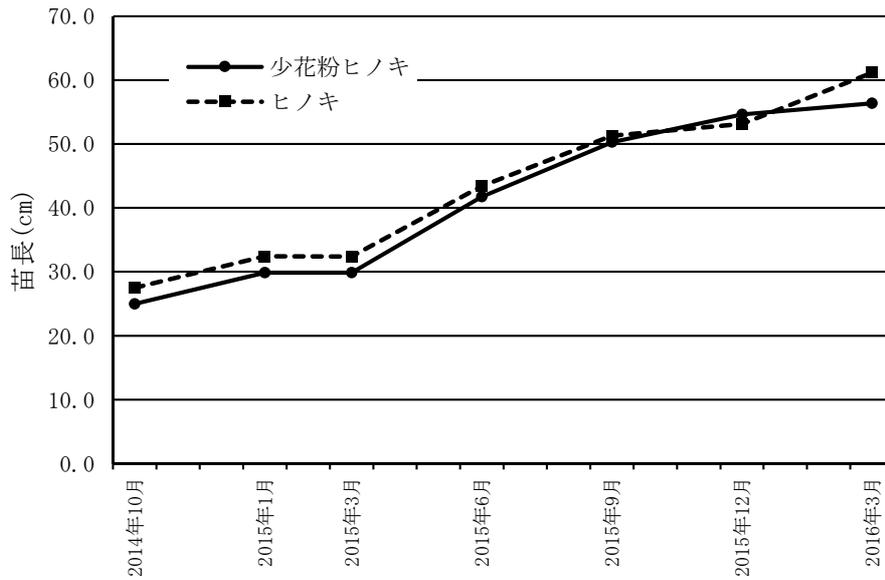


図1 苗木の推移

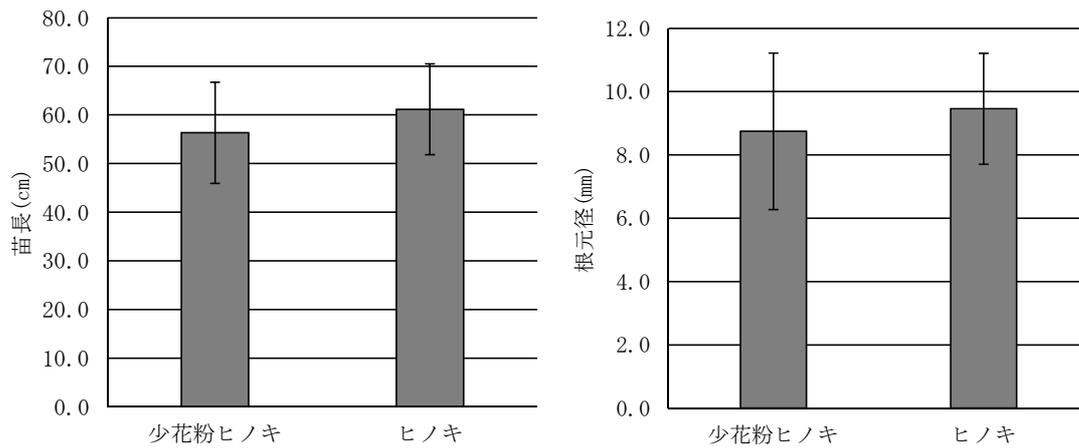


図2 山出し前の苗木の苗木と根元径 (2016年3月測定)
※図中のバーは標準偏差を示す

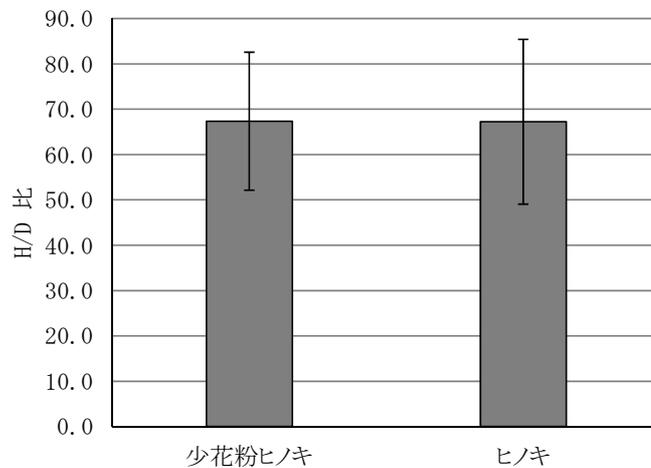


図3 山出し前の苗木のH/D比 (苗木/根元径) (2016年3月測定)
※図中のバーは標準偏差を示す